

百草

ひやく にち そう

No. 33

特定非営利活動法人たすけあい大田はせさんず
〒146-0082 東京都大田区池上4-28-3
TEL03-5747-2610 FAX03-5747-2620
e-mail・info@hasanz.com
URL・https://hasanz.com/

はせさんずは会員制のたすけあいの会です。入会随時受付！
NPOの非営利活動にご寄付ご支援をお願いします



いよいよ真価が問われる市民後見

NPO法人たすけあい大田はせさんず
理事長 棧敷洋子

はせさんずは2012（平成24）年に市民後見事務所を開設しました。認知症の人、障害があり保護者の死亡や高齢化で困っている人、また、今はしっかりしていても将来が不安な人などの相談相手になり、はせさんずが市民後見人として代理を引き受けていくためのものです。現在、高齢者6名と任意後見契約（公証役場で公正証書契約する）を結んでいます。ただ、本人の判断力が実際に低下した場合に契約発効となるので、後見業務の開始は先になります。認知症を発症しているなどの要件が整わなければ、専門職後見人はもちろん、市民後見人も支援できません。

そこで、はせさんずでは、任意後見に月に1回の見守り訪問をつけていますが、これが非常に役立っています。見守り訪問の目的は利用者の心身の健康確認と環境確認、相談ごとの受託などですが、定期的に訪問することでコミュニケーションがスムーズになり、たとえば、具合が悪く入院となったときなどに、手続きや必要物の購入を手伝うことが自然とできています。また、任意後見契約はしていない人で見守り契約だけを希望される人が4名、金銭管理を依頼されている人が2名います。

妻の死後一人暮らしで、目の不自由な男性の任意後見契約では、介護保険の契約に立ち合い、ケアマネジャーやヘルパーステーションとの連携を行いました。市民後見人として、生活の安心・安定のお手伝いできたと思います。亡くなったときには、葬儀、納骨、部屋の片づけ、親族との連絡などの死後事務を行いました。はせさんずとしては初めてのケースですが、生前からの約束で遺産の中から100万円ほどの遺贈寄付をいただきました。

成年後見制度は、2000（平成12）年に介護保険制度と同時にできましたが、成年後見は介護保険ほどには利用されてきませんでした。この成年後見制度が見直され、2026（令和8）年にはリニューアルされるそうです。判断能力のあるうちに契約する任意後見の利用を促進する方向になるようです。この動きは、はせさんずが実践してきた活動とも重なり、その真価が問われることにもなるのでしょうか。

今年度も、市民後見人養成講座を開催します。見守り訪問を担うボランティアも募集するつもりです。市民後見人が増えて、後見を必要とする人が安心して利用し、毎日をすごしていける地域になってほしい、ぜひともそういう地域にしていきたいものです。

第26回通常総会開催

第26回通常総会を、5月26日(日)10時から、はせさんず事務所1階(デイホーム)で開催しました。

社員総数27名のうち、出席者18名、委任状表決者(議決権行使含む)7名により総会は成立し、下記5議案が異議なく承認されました。

- 第1号議案 2023年度事業報告
- 第2号議案 2023年度決算報告
- 第3号議案 2024年度事業計画(案)
- 第4号議案 2024年度活動予算(案)
- 第5号議案 役員改選・追加(案)



●2024(令和6)年度事業計画

[会員制活動事業]

地域でのボランティアな「たすけあい活動」は当法人の基盤であり、会員の確保やコーディネータの育成を行いながら活動を継続します。活動目標は年間6,400時間。移送サービス活動会員の研修会やボランティア講座などを開催します。たすけあい活動への支援の必要性を周知する寄付キャンペーンを行い、寄付活動の定着を図ります。

[広報・外部団体との連携]

広報紙の発行など引き続き広報に力を入れ、連携している外部団体や地域の関連の団体とも情報交換・継続交流を図ります。

[元気かい]

元気な高齢者の介護予防継続のため、健康麻雀、俳句、英会話サロンなどに加え、絵手紙も再開します。寄り道カフェとも交流します。

[居場所事業]

寄り道カフェは池上駅前商店街の貸しスペース「テラッコ池上」で継続運営。高齢世代、子育て世代、子どもなど、いろいろな世代が参加しやすい内容を企画します。

脳トレ教室や元気たいそうを開催し、元気かい参加者との交流や居場所の活性化を図ります。

[市民後見事業]

ケアマネジャー等と連携して制度の周知や利用促進に努め、任意後見活動や見守り活動を促進します。本年度も後見人養成のための基礎講座を開催します。

[(介護保険)訪問介護事業]

大田区総合事業や自費サービスも合わせた訪問介護の活動目標は、年間8,460時間。事業所の体制を整備し、特定事業所加算を申請。引き続き介護職員のキャリア段位取得や、レベルアップ研修に取り組みます。

[(介護保険)居宅介護支援事業]

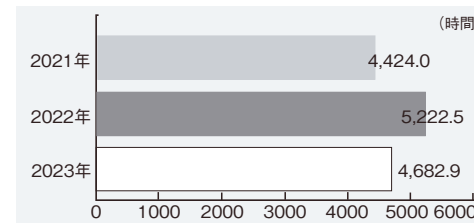
要支援・要介護合わせ年間1,274件のケアプラン作成と月4～5人の認定調査が目標。地域の相談支援の受け皿として、また、高齢になった障害者が介護保険利用へ移行するケースに備え障害者理解にも努めます。

[(介護保険)通所介護事業]

年間利用者4,116人を目標に、利用者が楽しんで利用できるサービスの提供をめざ

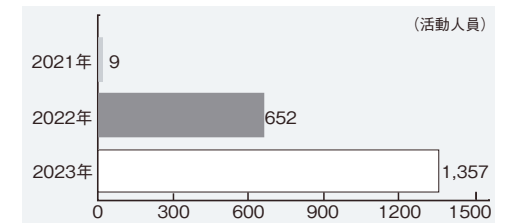
●2023(令和5)年度事業報告資料(3年間の部門別活動状況)

[会員制活動事業]



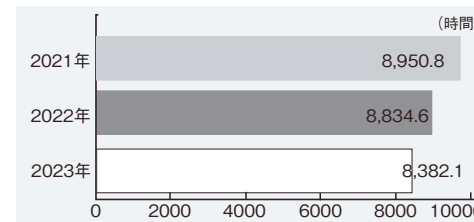
目標の6,400時間に対し73.2%の実績で、前年度比は89.7%と大きく減少。移送活動者の減少でサービス依頼に応えられず利用実績が減少した。

[元気かい・居場所事業]



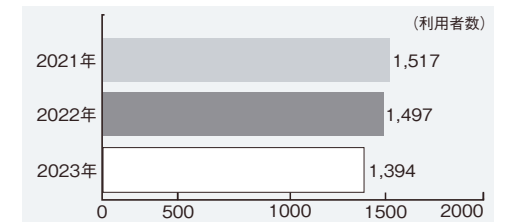
コロナ禍前と同様に健康麻雀、俳句、英会話サロンなどの活動を実施し、新規の脳トレや元気たいそうも開始した。

[介護保険訪問介護事業]



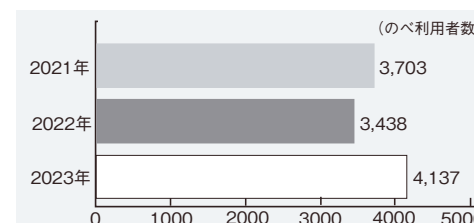
大田区総合事業や保険適用外サービスも合算して、目標の9,840時間に対し85.2%の実績で、前年度比も94.9%と減少した。サービス提供責任者の退職に伴う補充ができず、利用者を増やせなかった。

[介護保険居宅介護支援事業]



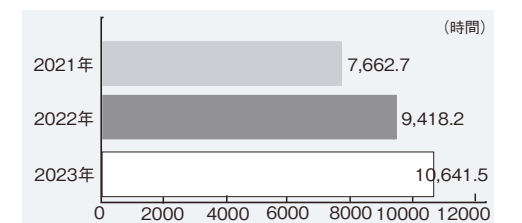
要支援者を含む利用者数の目標1,524人に対して91.5%の実績。前年度比も93.1%と減少。常勤ケアマネ1名の退職に伴い、利用者の一部を他事業所へ紹介したり新規の相談受付を一時停止したりした。

[介護保険通所介護事業]



目標利用者数3,850人に対し107.5%の実績で、前年度比も120.3%と利用が回復。しかし、介護職の不足に対応するため、非常勤職員の出勤回数を増やしたり派遣職員で補充したりと、人員配置の難しさもあった。

[障害福祉サービス事業]



目標の8,700時間に対して122.3%、前年度比は112.9%の増加となった。前年度の途中から移籍してきた利用者やヘルパーがそのまま在籍しており、計画を超えるサービス増加となった。

します。利用者ごとの個別のケアを大切にしながら、脳トレや体操などで体力維持を図り、外出プログラムも引き続き実施します。

[障害福祉サービス事業]

東京都指定の居宅介護等と大田区移動支援を合わせた活動目標は、年間10,440時間。4月から特定相談支援を開始、月1～2名の支援をめざします。サービス提供や研修などで引き続き事業者間の連携を図ります。

[保育事業(大田区委託事業)]

調布、蒲田、大森、糎谷・羽田の各地域庁舎で実施される母親教室の中での保育を年間100回程度担当します。

[その他の事業]

外部への講師派遣、学校団体の職場体験、現場研修などを引き受け、地域貢献と同時にNPOの活動の実際を知ってもらいます。

前年に引き続き、「東京都ヤングケアラ

はせさんずにご寄付をありがとうございました

2023(令和5)年度寄付者

安藤くに子	磯 昌子	伊藤英子	伊藤佐代子	扇田みゆき	大崎ちなみ
大澤恵美子	乙部道子	角田 清	河西邦子	菊池三郎	小平康人
後埜上克夫	小林洋志	駒澤和子	齋藤弘晶	佐伯ひで子	坂口郁子
栈敷洋子	清水桂子	清水真人	高木敦子	高杉玲子	高橋正昭
田島和子	田島美智子	田中昌子	田村政子	豊田重昭	長岡慶子
二本松愛子	野口秀壬	濱田雅美	早川治子	平尾淑江	深見雅子
福原いづみ	森 務	森友敬子	安岡大作	谷田貝嶺子	山川 哲
山田麻澄	吉田安男	米山満壽子			



以上 45 名(敬称略五十音順) 総額 3,540,653 円でした。皆様からのご芳志は、はせさんず運営費として有効に使わせていただきました。なお、大田区より福祉有償運送補助金として 438,200 円の交付を受けています。

「一相談支援等補助事業」採択事業(はせさんず こども・若者なごみ広場「つながる和。」)に取り組みます。

●決算・予算について

2023(令和5)年度の会員制活動、介護保険、障害福祉サービス等を合わせた法人全体の総収入額は1億4,982万円(前年度比105.9%)、総支出額は1億4,993万円(前年度比106.0%)。当期収支差額は若干の赤字でした。

会員制活動では350万円を超える寄付があり、全体で57万円の黒字となりました。介護保険訪問介護および障害福祉サービス事業も計画を上回り収支は黒字。しかし、居宅介護支援事業は常勤ケアマネ1名

の退職に伴い利用者数が減少していること、また、通所介護事業は計画を上回る利用実績を上げながらも、介護職の補充ができずに派遣職員等人件費が増加したことなどにより、介護保険等事業全体では68万円の赤字となりました。

2024(令和6)年度の予算は法人全体で1億4,940万円(前年度比99%程度)としました。各事業の前年度の実績をもとに作成しています。

●役員の変更(追加)について

今年度は任期満了による改選はありませんが、以下の役員候補者が追加承認されました。

理事 高木清彦(新)

2024(令和6)年度月別活動予定

4月 元気かい、寄り道カフェ、「つながる和。」開催(以後毎月開催)	10月 職員防災避難訓練、ヘルパーステーション研修会
5月 第26回通常総会	11月 寄付キャンペーン、『はせさんずニュース』No.104発行
6月 『百日草』No.33・『はせさんずニュース』No.103(臨時号)発行	12月 移送活動者安全研修会
7月 ヘルパーステーション研修会、デイホーム運営推進会議	1月 『はせさんずニュース』No.105発行、障害者支援研修会
8月 成年後見制度内部職員研修	2月 デイホーム運営推進会議
9月 市民後見人養成講座	3月 講演会

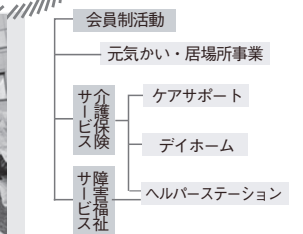
mini News

各部門今年度はここが重点!

会員制活動

見守り訪問の充実へ市民後見人養成に注力

はせさんずが市民後見事業の中で力を入れているのは見守り訪問です。任意後見契約で利用できますが、見守り訪問だけの利用も可能です。この活動を定着させるには、スタッフをもう少し増やす必要があります。今後も人員の養成に力を注いでいきたいと思ひます。(矢嶋早苗)



ヘルパーステーション

一丸となって笑顔と安心の提供を

利用者にさらに質の高いサービスを提供できるよう、事業所体制の整備を行います。日々の報告や定期的な会議などでサ責とヘルパーの連絡を密にし、ヘルパーの継続的な研修とスキルアップを通じて専門性を高め、ニーズに応じたサービスを心がけます。一丸となって笑顔と安心の提供をめざします。(榎拓巳)



デイホーム

開設20周年の感謝とともに

開設20周年を迎え、これまで支えてくださった皆様に感謝申し上げます。本年度は、懸案事項だった機能訓練の導入を、他機関・理学療法士との連携により開始します。脳トレ・運動・外出活動の多方面から、利用者の心身の安定・向上を支援していきます。さらなる提供内容の充実をめざして研鑽いたします。(岡田香)



ケアサポート

従来どおりで良質なプラン継続

今回の介護報酬改定ではケアマネ1人あたりの取扱件数が緩和(増加)されましたが、ケアマネが疲弊することなく良質なプランを継続するために、はせさんずでは従来の利用者数を維持していきます。属性や世代を問わず相談を受け止め、支援が届いていない人に支援を届ける重層的支援体制の勉強も進めていきます。(清水桂子)



元気かい・居場所事業

元気たいそうで運動を習慣化

フレイル対策の要である栄養・運動・社会参加を実践するために、1月より元気たいそうを開始。認知症予防のヨガやサイズ、お手玉たいそう、関節トレーニングなど楽しく運動しています。家でできるマニュアルも作成中。寄り道カフェの健康情報や脳トレ教室の情報も取り入れ、いつまでも動ける体づくりをめざしていきたい。(佐藤悟)



■はせさんず第25回講演会

「隣近所、みな高齢者」という社会で、あなたはどうか生きていますか？

——高齢者に不可欠なのは、本当に「医療・介護」なのか？



講師：川口雅裕(かわぐち まさひろ)さん
NPO法人「老いの工学研究所」理事長、一般社団法人「人と組織の活性化研究会」理事、コラムニスト
2024年3月23日(土) 大田区立池上会館 第2会議室にて

要介護3以上の人は80代後半で約15%、90歳以上でも約33%にすぎません。7割近い人は高齢期の健康を維持しながら暮らすことができます。それには心身の健康を維持するための自身の環境を整えることが重要といわれます。はせさんずでは「元気かい」や「寄り道カフェ」で同世代交流を早くから実践しています。高齢者の暮らし方や環境を研究している川口雅裕さんのお話と共通するところがあるのではないかと楽しみです。

はじめに

大阪大学と共同で高齢期の健康維持のメカニズムを研究しています。生活習慣や日頃どういう暮らし方をしていると健康状態が維持強化されるか、日頃のライフスタイルと健康の関係の研究です。データを集めるだけではなく、多くの高齢者のインタビューも実施しています。高齢者の健康に対する認識を変えるお話をしたいと思います。

高齢者の身体的な話

高齢者の若返り

高齢者の身体的な特徴として、昔と見た目がまず違いますが、歩行速度からも体力向上がはっきりわかります。歩く速度が昔より速くなった。2017年の調査で男性の80～84歳の歩くスピードは1997年の70～74歳の歩くスピードと同じくらい。ここ10年ほどで10歳若返ったかっこうです。

要介護者はそれほど多くない

要介護1までは、ほとんどの人は自宅で自立生活が可能です。要介護2になるとちょっと厳しい。要介護2以上の人は80歳代前半で1割、70歳代後半で20人に1人、85歳以上で22.8%、90歳以上でも半分に

いかない、自宅で自立生活が可能という人は半分以上いるということです。

テレビや新聞では、高齢になるとみんな介護が必要になるように報道していますが、少ない事例を無理やり報道して、完全なミスリードなのです。

健康寿命のカラクリ

健康食品とか保険の広告で、健康寿命は男性が72歳で、女性が76歳だということがありますが、これはおかしい。

国民生活基礎調査に「あなたは健康上の理由で日常生活に何か制限がありますか」という質問があって、「ある」「ややある」「あまりない」「ない」の4択。「ある」「ややある」を選択すると健康寿命が尽きていることになる。さらに、重い障害をもって生まれた人もこの統計に入っています。強いていえば、若い人が何歳ぐらいまで健康でいられるかをみるもので、現在70歳代の高齢者とは何の関係もない。

要介護1までを健康としてみると、65歳以上の方が平均的に要介護2以上になるのを私が調べた結果、男性の健康寿命が81歳、女性が85歳です。これは実感にかなり近い。健康寿命や平均寿命の話は自分には関係がないと思ってください。

高齢者の環境の話

高齢者の家族形態の変化

高齢者世帯の家族形態は、1986年には高齢者一人(単独)世帯が13.1%、夫婦のみの世帯が18.2%、三世帯世帯が44.8%でした。2022年には高齢者一人世帯が31.8%、夫婦のみの世帯が32.1%、三世帯世帯が20.1%となっています。

これをどうみるか。孤独の問題とか、何かあっても誰も助けてくれないとか、災害や防災の問題で高齢者の不安が高まっている、というのが普通の見方です。

高齢者だけで生きるのが衰えを防ぐ？

しかし、高齢者の体力は10歳ぐらい若返った。現役世代の体力は変わらず、小中学生などの体力は落ちているのに、なぜ高齢者だけ体力がついているのか。高齢者が高齢者だけで生きようになったからです。

昔は三世帯同居で子や孫に何でもしてもらえたけれど、今は高齢者だけでいるから、自分で何でもしなければならない。スーパー行って、買い物して、何を作るか考えて、作って食べて、洗って、片づける、これを毎日やる。高齢者が自分で何もしなければならなくなったことが、高齢者の肉体的衰えを防いでいると私は確信しています。

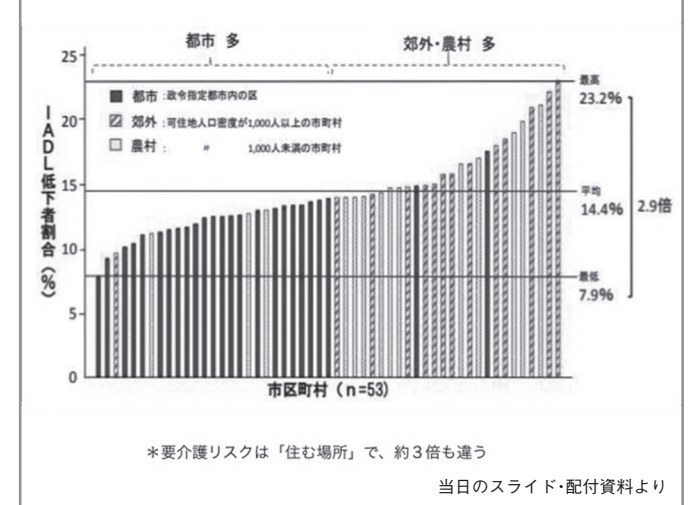
健康寿命はどこに住むかで決まる

9年間の健常高齢者の追跡調査、要介護・要支援でない高齢者が9年後どうなったかを調査したのがあります。9年間で53市区町村のうち最高23.2%の高齢者が要介護・要支援になったところがある一方、9年間で7.9%しか衰えなかった町がある。

この調査が明らかにしたのは、住んでいる場所で衰え方が違うということ。

昔は、定年退職したら、空気のきれいな

環境の話 ～住む場所と要介護リスクの関係



風光明媚な場所でゆっくりすごすようになっていきましたが、価値観が変わります。都市部のほうが圧倒的に健康保持率が高いのです。

理由を探ると、まず、都市部には利便施設が多いこと。銀行、役所、病院、スーパー、コンビニなど現役時代と同じスタイルで生活できるという利点があります。2番目に病院が多いこと。脳や心臓などいざという緊急時に助けてもらいやすい、早い処置で後遺症が残りにくい。3番目に、都市部は人に会いやすく、人間関係が作りやすい。

健康と医療の関係

健康な「病人」が多すぎる

高齢者の健康状態の自覚と訴え、通院状況の比較をみると、不健康の自覚がある人は2割、けがや病気の自覚がある人は4割なのに、通院している人は7割もいる。「また来週来てください」と言われて通院する人が多い。要するに病院で病人がつくられているのです。

医療の常識の誤り

健康診断とか人間ドックとかを受ける人は多いでしょうが、実は、毎年健康診断を受ける人と、人生で一度も健康診断を受け

ない人の寿命は同じです。

日本では認知症の発症率が増えています。アメリカやヨーロッパではこの10年、認知症の発症率は減り続けています。なぜ日本だけが増え続けているのか。認知症の検査は難しく、それが理由の1つと思えます。こんな検査が本当に必要でしょうか。

また、全病床の平均在院日数の推移をみると、欧米と比較して日本が長いことがわかります。日本の医療費が増え続けるのは高齢者が病院に行きすぎるからであるともいわれています。しかし、これらのことは、日本の診療報酬という医療制度の問題で、高齢者の医療とは別の話です。

さらに、日本の平均寿命が伸びたのは医療の発達のおかげといわれますが、これも誤り。衛生状態がよく（＝感染症が減る）、食事がよくなったため、医療の貢献は乳

幼児の死亡率が改善したことのみです。

健康には環境が大事

健康は“ロゼトの奇跡”に学べ

アメリカのペンシルバニア州にロゼトというイタリア移民がつくった町があり、死因が老衰のみというので有名になって、調査チームが入りました。3年後に出した結果は、他の町と比べて健康上の特別な特徴はなく、イタリア移民の住民同士の交流、連帯が原因と思われる、という内容。

その後、ロゼトも豊かになって住民同士の連帯も薄れていき、死因もアメリカの普通の町と同じようになったとのこと。これは、環境（暮らし方）が健康に大きな影響を与えるということをよく示しています。

予防で健康づくり

1次予防、2次予防、3次予防について

環境の重要性を示唆するさまざまな研究成果

- ・高齢者の認知症リスク。運動が盛んな地域に暮らすだけで低下。(筑波大学・辻大士氏)
- ・地域への信頼や愛着が高いまちは、男性の介護リスクが9%減。(国立長寿医療研究センター・野口泰司氏)
- ・社会参加する高齢者は9年後の要介護リスク0.8倍、死亡リスクも0.8倍(京都大学・高橋 世氏)
- ・運動を「週2回以上」または「誰かと一緒にする」と、2年後の抑うつが半減。「誰かと一緒に週2回以上する」と6割減。(東京医科歯科大学・金森 悟氏)
- ・人間関係が豊かな地域は、歯を失うリスクが7%少ない。友人の数や種類が多い高齢者は、歯が多い。(東北大学・相田 潤氏)
- ・高齢者が交流を持つ「コミュニティ・サロン」の設置で要介護認定率が半減。(ハーバード大学・引間博之氏)
- ・役割を担って社会参加している男性では、うつ病のリスクは7分の1。(東京大学・高木大資氏)
- ・近隣に食料品店が少ないと、認知症リスク1.5倍。(東京医科歯科大学・谷 友香子氏)
- ・多趣味な高齢者は認知症リスクが低い。趣味2個で10%のリスク軽減効果。(東京医科歯科大学・藤原武夫氏)
- ・社会参加、外出、通院の割合が高い市区町ほど健康寿命が長い。(京都大学・細川陸也氏)
- ・運動グループと趣味グループへの参加増加が抑うつ悪化を予防。(千葉大学予防医学センター・章 文氏)
- ・就労、スポーツ・趣味活動への参加は、都市、農村共に要介護リスクを10~24%抑制(千葉大学・井出一茂氏)
- ・普段 笑う機会のない人は、要介護リスクが1.4倍高い。(名古屋大学・竹内研時氏)

日本老年学的評価機構のまとめによる (当日のスライド・配付資料より)

高齢者福祉の三原則

- ①**生活の継続性**:できる限り在宅でそれまでと変わらない暮らしができるよう配慮する
- ②**自己決定の原則**:高齢者自身が生き方・暮らし方を自分で決定し、周囲はその選択を尊重する
- ③**残存能力の活用**:できることまで手助けしてもらおうのは能力低下を招く。できることは自分でやること

当日のスライド・配付資料より

は学校の保健医療で習いましたね。

1次予防とはちゃんと食べてちゃんと運動して、いい生活習慣で心と体の健康づくりをする。2次予防は、自分の健康状態を把握して病気がひどくなる前に早期発見、早期治療する。3次予防は、病気の悪化や再発を防止する治療やりハビリをいいます。

がんばらなくていい環境でゼロ次予防

最近いわれるようになったのがゼロ次予防です。なぜか。1次予防に限界があるからです。毎日運動しよう、ウォーキングしようと思っても、なかなか続かない。健康習慣のために努力するには限界がある。

ゼロ次予防というのは、がんばらなくても、よい生活習慣になってしまう環境のことです。人と交流したり、連帯したりすることで、よい生活習慣の継続につながるのです。このゼロ次予防を医師も推奨するようになりました。

今後、健康とか幸福とか考えるときにゼロ次予防がきいている環境なのかという観点が大事です。何も努力してないのに、変わらないというのが、ゼロ次予防がきいているということです。

医療は病気を治す、健康は自分でつくる

健康とは病気を治すことではない。毎日人と出会って幸福感を感じる、心の張りを覚える、信頼し合ってい

「高齢期の6つの発達課題」(ハービガスト)

- ①体力や健康の衰えに適應すること
- ②引退と収入の減少に適應すること
- ③配偶者の死に適應すること
- ④同年代の人々と親密な関係を結ぶこと
- ⑤社会的・市民的義務を果たすこと
- ⑥身体的に満足できる生活環境を確立すること

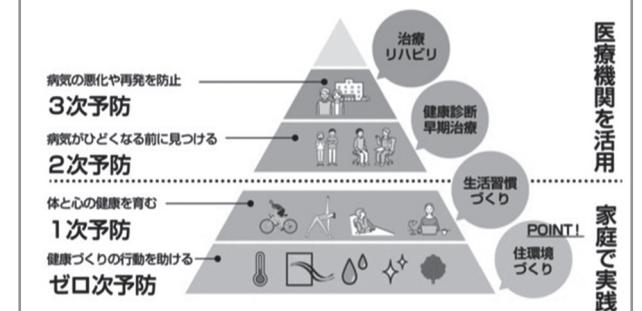
当日のスライド・配付資料より

ると感じる感じがする、体をケアし、健康だと実感することがある、こういう状態は医療ではつくってくれません。病気の治療は医療に頼んでも、それ以上は自分と仲間で作らなければいけない。健康は医者ではなく自分でつくるものだとして認識しましょう。

まとめ

高齢者に不可欠なのは、「医療・介護」ではありません。自分の意思で物事を決定し、健康な部分を生かし続けるということこそが、健康な高齢期づくりの基本です。そして、楽しく幸福な高齢期は環境次第。同世代で集まる効能、同世代で集まりやすい環境で暮らす大切さを理解しましょう。

健康は“頑張らなくても”良い生活習慣になってしまう環境が大事。



監修：東京都立大学 名誉教授 星 旦二 出典：星 旦二 ゼロ次予防に関する試論地域保険 vol.20-6 1989

当日のスライド・配付資料より

私たちのあゆみ

2023(令和5)年4月～2024(令和6)年3月

- 2023. 4. 3(月) ヤングケアラー支援事業つながる和。リアルミーティング テラッコ池上にて 以後全 51 回 小林・岡田
- 4(火) 寄り道カフェ テラッコ池上にて 以後全 26 回 参加者のべ 247 名 佐藤・矢嶋
- 5(水) つながる和。LINE チャット はせさんず事務所にて 以後全 51 回 小林・岡田
- 6(木) 大田NPO活動団体交流会(役員会、議員懇談会、学習会、子ども部会) 以後全20回 矢嶋
- 11(火) 元気かい脳トレ教室開始 テラッコ池上にて 以後全 12 回 佐藤
- 19(水) 大田区訪問介護事業者連絡会運営委員会 以後総会含め全 13 回 棧敷・榎
- 20(木) つながる和。オンラインサロン はせさんず事務所にて 以後全 12 回 小林・岡田
- 23(日) 市民後見人養成基礎講座修了式
修了後にもフォローアップ講座を3回実施しました。
- 26(水) ヘルパーステーション&ケアサポート&デイホーム 合同研修「高齢者虐待」 はせさんず事務所にて 参加者9名
合同研修は、5.26(金)に「感染症・食中毒」(参加者12名)、6.8(木)に「自転車ヘルメットの着用」(同13名)、11.14(火)に「カスタマーハラスメント」(同9名)、2.19(月)「感染症」「災害時対策」(同15名)も実施しました。
- 27(木) 介護予防教室 地域包括支援センター徳持にて 以後全2回 佐藤
- 5.1(月) セーフティドライブコンテスト
無事故・無違反をめざし、移送活動者全16名が参加。
- 21(日) 池上まちおこしの会ゴーヤ&ミニトマト苗頒布会 佐藤
- 28(日) 第25回通常総会 はせさんず事務所にて
- 6.2(金) 『はせさんずニュース』No.100初夏号発行 以後11.10 No.101秋号、2023.1.23 No.102 新春号発行
記念すべきNo.100初夏号では「はせさんずニュース」が100号になりました」として過去の紙面を振り返り。No.101秋号では「はせさんずデイホーム コロナを超えて」「はせさんずにご寄付ご支援をお願いします」、No.102新春号では「今できることは何かを考えながら」を特集。
- 16(金) 大田区自立支援協議会 以後全6回 棧敷・榎



寄り道カフェ・スマホ講座



元気かい・麻雀大会



市民後見人養成基礎講座修了式



『はせさんずニュース』No.100

■ご冥福をお祈り申し上げます

- 2022(令和4)年 12月29日 青野正雄さん
- 2023(令和5)年 3月9日 高橋利子さん 3月10日 田中昭二さん 4月29日 佐藤精一さん
- 6月17日 吉田光江さん 11月21日 鈴木美代子さん 11月29日 尾内勝三さん
- 2024(令和6)年 1月23日 長沢純子さん 1月25日 上地喜信さん (会員のみ)

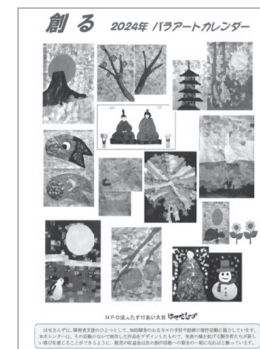
- 23(金) 大田区介護保険事業者研修 以後全2回 清水・平山・鈴木・小室
- 7.7(金) 『百日草』No.32 発行
- 11(火) 池上警察署・池上交通安全協会より交通安全対策優良事業所として感謝状を受賞
- 26(水) 介護支援全体研修 以後全5回 清水・平山・鈴木・小室
- 31(月) デイホーム運営推進会議 以後全2回
- 8.9(水)・13(日) 東京都介護支援専門員研究協議会研修 清水
- 27(日) 池上まつりに模擬店出店 デイホーム・寄り道カフェ・つながる和。
- 28(月) 地域ケア会議 以後全2回 清水・佐藤
- 30(水)・31(木) 大森地域ケアマネ連絡会スキルアップ研修 以後全2回 清水・平山・小室
- 9.6(水) 男の居場所「ダンディ会」 地域包括支援センター徳持にて 以後全4回 佐藤
- 10.11(水) 自衛消防・避難訓練 参加利用者15名・スタッフ17名
- 27(金) ふれあい茶話会(民生委員主催) 以後全4回 清水・平山・鈴木・小室
- 31(火) どんご保育園から園児がデイホームを訪問 以後全5回
- 11.17(金) 移送サービス安全運転研修会 大田区池上会館にて 参加者11名
- 28(火)～30(木) 大森第四中より職場体験 デイホームにて 2名
- 12.1(金) 2024年版パラアートカレンダー制作・販売 94部
- 4(月) 池上まちおこしの会情報交換会で発表 棧敷・佐藤
- 10(日) 大田福祉フェスに出展 棧敷・佐藤・榎
- 2024.1.17(水) 元気たいそう テラッコ池上にて 以後全10回
- 21(日) つながる和。イベント「軽食を食べながらつなごう！」 テラッコ池上にて 以後全3回
- 2.21(水) ケアプラン点検ファシリテーター 清水・小室
- 3.11(月) 防災避難訓練(模擬演習) 全5日間 参加利用者のべ69名・スタッフ20名
- ～15(金) 第25回講演会 大田区池上会館にて 参加者45名
- 23(土)



交通安全対策優良事業所感謝状受賞



池上まつり



2024年版パラアートカレンダー



つながる和。イベント

■移送活動＝福祉有償運送は今後…

移送は、はせさんずの事業の中でも必要度ナンバーワンといっているサービス。日に16～20件くらいの予約があり、11名くらいの活動者で対応しています。利用時間帯が重なり活動者の手配ができないときには、事務所職員も活動に入るし、日によっては1人で3件を担当することもあります。



ドライバー不足による2024年問題はあながち業界ばかりの話ではなく、高齢になりやめる人もいますので、活動者は本当に不足しています。事業継続へ危機感が募ります。

この4月から、タクシー業者が運行を管理する形で「日本版ライドシェア」が始まりました。一般ドライバーが有償で乗客を送迎するというのは、移送によく似ています。当分はタクシーが不足する曜日・時間帯に限るものの、徐々に拡大していくそうです。

一方、移送つまり福祉有償運送のほうは、運営協議会で定めた規定による縛り（利用要件がある、料金は初期にはタクシーの半額までとされたなど）がまだにあります。要介護や障害の認定がなくても、自由に外出できない移動困難者は多いのに。

こうした状況はいささかバランスが悪いのではないのでしょうか。施政側に柔軟性を求めるとともに、移送は今後どうあるべきか私たちも考えていきたいと思います。（矢嶋早苗）

■地域連携はイベント参加から

はせさんずは、池上特別出張所管内18町会の徳持北町会会員。一会員として会合やイベントに参加しています。年間のおもなイベントは、

- ・2月：池上梅園まつり前清掃。池上駅から梅園まで清掃します。
- ・3月：スポGOMI池上大会。1チーム5人編成で60分間にゴミを6区画分収集する競技で、今年度は21チームが参加。
- ・8月：池上まつり。主催側発表で2万人が開催日一日に会場に集まります。はせさんずは今年、デイホームのグッズ販売、ヤングケアラー支援事業の周知活動、寄り道カフェの模擬店を予定。開催は8月25日(日)です。



イベント運営にも参画すれば、企画・実行・振り返りの過程で、ときには次への課題をテーマに激論や大笑いもあり、単なる顔見知りから地域の仲間づくりへと、連携の輪をつなげています。（佐藤悟）

編集後記

先頃、バイクシェアなるものを初めて利用した。手近なポートにある自転車を予約して、目的地まで乗り、近くのポートに返却する、つまりは現代版レンタサイクル。予約も決済もスマホアプリで完結する。そういえば、タクシーを呼ぶにも今は断然アプリなのだから。路上で拾えるタクシーがめっきり減ったようだ。かくして、スマホ難民なる移動困難者が増加中(?)。（小林恵子）